

令和8年度 都立高入試 配点について

吉野創育／新教育研究協会

都立高入試の予想得点の算出にあたりまして、弊社が予想いたしました配点をお知らせいたします。

国語 ー記述問題の配点についてー

4〔問5〕200字課題作文

●配点…10点

●採点方法

- 記述問題が200字作文1問だけであるため、採点は複数の先生が行い、互いにチェックする形になると思われます。「○○について××が書かれている。」のような具体的な基準を各校が定め、段階的に点数を設定していると想定されます。

〈内容〉については下記のような配点がされていると思われます。

- 自分の意見、主張があるか…4点
- 筆者の主張を踏まえているか…3点
- 具体的な体験や見聞があるか…3点

これらの項目について不備がある場合は、各配点の範囲で減点されると思われます。ただし、全体として論旨に一貫性のないものや、本文の抜き出し・要約になっているものは減点されると思われます。

- さらに、下記のような形式面で、減点されると思われます。

〈表記〉

句読点の誤り、誤字、脱字、衍字（=余計な字）／最後の一文が途中で終わっている／字数に過不足がある
〈言葉の特徴やきまり〉

常体と敬体の不統一／書き言葉としてふさわしくない／語句の意味や用法・文法上の誤りがある 等

数学 ー記述問題の配点についてー

●配点…各7点

●採点方法

- 模範例についての予想配点です。各学校によって違いはありますが、部分点があると思われます。

2〔問2〕

X, Y をそれぞれ a, b, c を用いた式で表すと、
 $X = 100a + 10b + c$
 $Y = 100c + 10b + a$
となる。
 $Z = X + Y$
 $= (100a + 10b + c) + (100c + 10b + a)$
 $= 101a + 20b + 101c$
 $W = (a + b + c) + (c + b + a)$
 $= 2a + 2b + 2c$
よって、
 $Z - W = (101a + 20b + 101c) - (2a + 2b + 2c)$
 $= 99a + 18b + 99c$
 $= 9(11a + 2b + 11c)$
 $11a + 2b + 11c$ は整数であるから、 $9(11a + 2b + 11c)$ は9の倍数である。
したがって、 $Z - W$ の値は9の倍数になる。

- X, Y をそれぞれ a, b, c を用いて表すことができ、各1点と思われます。
- $Z - W$ を $9(11a + 2b + 11c)$ の形で表すことができ、3点と思われます。ただし、 Z, W をそれぞれ a, b, c を用いて表すことができているならば、各1点の部分点があるものと思われます。
- 「 $11a + 2b + 11c$ は整数であるから、 $9(11a + 2b + 11c)$ は9の倍数」(同意可)が書かれていれば、2点と思われます。
- 誤字・脱字が1か所以上あると、1点減点になるとされます。

4〔問2〕①

$\triangle A Q D$ と $\triangle R S C$ において、
四角形 $A B C D$ は正方形だから、 $A D \parallel B C$
平行線の錯角は等しいから、
 $\angle D A Q = \angle C R S$ ……………(1)
対頂角は等しいから、
 $\angle A Q D = \angle R Q B$ ……………(2)
 $B D \parallel C S$ より、平行線の同位角は等しいから、
 $\angle R Q B = \angle R S C$ ……………(3)
(2), (3)より、
 $\angle A Q D = \angle R S C$ ……………(4)
(1), (4)より、2組の角がそれぞれ等しいから、
 $\triangle A Q D \sim \triangle R S C$

- (1), (4)のうち、1つが書けていれば3点、2つが書けていれば6点になるとされます。
- (1), (4)の式の根拠に不備がある場合は、それぞれの式において減点が行われるものと思われます。
- (1), (4)は順不同でもよいと思われます。
- 相似条件ができていれば1点と思われます。
- 相似条件は、「2角相等」などでもよいと思われます。
- 誤字・脱字が1か所以上あると、1点減点になるとされます。

英語 一条件英作文の配点について一

●配点…12点

●採点方法

- ・各学校によって違いはありますが、文法面とともに内容面を重視して採点すると思われます。
- ・今年も、空所の前後につながるように英文3文を記入してメール文を完成させる形式が出題されています。今年も、新しい趣味として始めることを友人に伝える設定となっています。まず新しい趣味として始めることを1つ示したあと、その理由や関連する内容等を示す文章を続ける解答となると思われます。時制面では、幅広い時制の文が認められると思われます。
- ・学校によっては、つづり字等の表記上の誤りがあれば、各文1～3点の減点があると思われます。ただし、同じ誤りを何回も繰り返したような場合は、全体で何点の減点というような配慮がなされると思われます。

社会 一記述問題の配点について一

●配点…各5点

●採点方法

- ・③〔問3〕 まず、問題文に「Ⅰ～Ⅲの資料から読み取れる」、「1997年と比較した2019年における太線(——)で囲まれた範囲の土地利用の変化について」、「2019年における太線(——)で囲まれた範囲に整備された施設の共通点に着目して」、簡単に述べよと書かれていることをおさえます。Ⅲの資料を見ると、「2019年における太線(——)で囲まれた範囲に整備された施設」は、「高崎アリーナ」と「高崎芸術劇場」であることがわかります。「高崎アリーナ」と「高崎芸術劇場」の共通点について、Ⅰの資料に着目すると、「人を呼び込むための集客施設」であることがわかります。「太線(——)で囲まれた範囲の土地利用の変化」について、Ⅱの資料を見ると、1997年には、「高崎アリーナ」がある場所は工場、「高崎芸術劇場」がある場所は駐車場であったことがわかります。これらのことから、「高崎市内外から人を呼び込むための集客施設として、工場であった場所に高崎アリーナが、駐車場であった場所に高崎芸術劇場が建てられた」ことを簡単にまとめていけば、正答となると思われます。
- ・④〔問3〕 まず、問題文に「機械(器械)製糸場数と、機械(器械)製糸場が立地する府県数の変化について」、「ⅠとⅡの資料を活用し」、「政府が1872年に富岡製糸場を設立した目的に着目して」、簡単に述べよと書かれていることをおさえます。Ⅰの資料を見ると、二つ目の文から職人たちの手本とするため、富岡製糸場を建設したことがわかります。Ⅱの資料を見ると、機械(器械)製糸場数と機械(器械)製糸場が立地する府県数が1872年以降に大幅に増加していることがわかります。これらのことから、「職人たちの手本とするために富岡製糸場が建設され、機械(器械)製糸場数と機械(器械)製糸場が立地する府県数が大幅に増加した」ことを簡単にまとめていけば、正答となると思われます。
- ・⑤〔問4〕 まず、問題文に「Ⅰ～Ⅲの資料を活用し」、「この法律の施行前と比べた施行後のノンステップバスの車両数の変化について」、「車両を新規に導入する際の公共交通事業者の義務及びノンステップバスを新規に導入する際の国による支援措置に着目して」、簡単に述べよと書かれていることをおさえます。Ⅰの資料を見ると、二つ目の文から、国が公共交通事業者に対して、この法律等で定めるバリアフリー基準への適合を義務付けたことがわかります。Ⅱの資料を見ると、一つ目の文から国の公共交通事業者に対する支援措置として経費の一部を補助すること、二つ目の文から税制上の措置を講じることがわかります。Ⅲの資料を見ると、交通バリアフリー法の施行後にノンステップバスの車両数は、施行前と比べて大幅に増加していることがわかります。これらのことから、「国が公共交通事業者に対して、バリアフリー基準への適合を義務付け、支援措置として経費の一部補助や税制上の措置を行い、法律の施行後、ノンステップバスの車両数は施行前と比べて、より増加した」ことを簡単にまとめていけば正答となると思われます。

理科 ー記述問題の配点についてー

●配点…各4点

●採点方法

- ⑤〔問1〕 塩化銅水溶液に電流を流すことができる理由を、塩化銅水溶液の溶質が水に溶けるときの変化に着目して答える問題です。塩化銅水溶液の溶質は塩化銅であり、塩化銅は電解質です。電解質とは、水に溶かしたときに電離して陽イオンと陰イオンに分かれる物質（溶質）のことです。こうして水溶液中にイオンが発生することにより、水溶液に電流を流すことができるようになります。つまり、電流を流せる理由に関係する塩化銅水溶液の溶質（塩化銅）を水に溶かしたときの変化は、『溶質である塩化銅が、水に溶けると電離して陽イオンと陰イオンに分かれる』ということになります。したがって、指定語句が「電解質」であることを踏まえ、**「塩化銅水溶液の溶質（である塩化銅）は電解質だから、水に溶けるときに（電離して）陽イオンと陰イオンに分かれるから」**または、**「塩化銅は電解質であるため、溶解時に電離するから」**と書けていれば、正答になると思われます。
- ⑥〔問4〕 <結果3>の図6のようすを参考に、ゴム膜の中心に変化に着目して、上面側のゴム膜の中心Xと下面側のゴム膜の中心Yのそれぞれに働く水圧の大きさについて答える問題です。まず、水中にある物体に働く水圧は、物体の下から働く水圧の大きさの方が、物体の上から働く水圧の大きさより、大きくなります。しかし、今回の問題ではこの知識から解答するのではなく、図6におけるゴム膜の中心の変化に着目して回答する必要があります。図6では、上側のゴム膜の中心Xよりも、下側のゴム膜中心Yの方が、より大きくへこんでいることが分かります。また、ゴム膜の中心は働く水圧が大きいほど、大きくへこみます。以上を踏まえ、**「(ゴム膜の中心Xと中心Yを比較すると,) ゴム膜の中心Yの方が大きくへこんでいる」**ということを書いたうえで**「ゴム膜の中心Yに働く水圧の方が大きい」**ということが書けていれば、正答になると思われます。